

発言No. 17

受付No. 2

令和 3 年 8 月 19 日  
11 時 50 分 受付

## 一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 17 番 氏名 佐々木 豊治

答弁を求める者 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長  
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

### 発言項目及び要旨

#### 1, 医療的ケア児支援について

① 今年6月、たんの吸引や人工呼吸器などが日常的に必要な子どもとその家族を支援する「医療的ケア児支援法」が成立し、9月施行となっているが、浜田市における医療的ケア児支援の現状を伺う。

② 支援法では医療的ケア児の居住地に関係なく、等しく適切な支援をすることを国や自治体の責務であると明記しており、浜田市において、新たな支援策を充実すべきと思うが所見を伺う。

#### 2, 通学路の危険箇所対策について

先日の市民一日議会においても通学路の安全対策について訴えがあった。

美川の牛谷地域から小中学校までの県道区間のことで、私自身もこれまでも議会で取り上げてきた経緯もあるので、改めて質問をする。

当該地域の通学路の安全対策について平成26年に要望が出され、カラーペイントなどの対応がなされている。

平成29年にも再び要望が出され、県はこれ以上の整備対応はできないとの回答で、「生徒指導にて対応」とのことで、結果として対応済とされてきた。

しかしながら、抜本的な対策にはなっておらず、令和元年6月定例会議でこの問題を取り上げ、路線バスの活用も含め危険を少しでも回避する対応をお願いしていた。

① 当時の答弁では「全市的な問題として考え対応を検討したい」との答弁ではあったが、その後の検討状況を伺う。

② 見通しが悪い狭いカーブなど、特に危険な個所だけでも簡易な対応などができないのか改めて伺う。

### 3. 河川の浚渫について

① 河川の浚渫の必要性について、担当課の認識を伺う。

② 災害対策の一環として、河川の浚渫の抜本的な対応を財源も含め、検討すべきと思うが所見を伺う。

発言No. 18

受付No. 14

令和 3年 8月 24日  
10時29分 受付

## 一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 9番 氏名 野藤 薫

答弁を求める者 (○をつける) 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長  
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

### 発言項目及び要旨

#### 1. 地域課題の解決の方向性について

- ① 町なかの高齢化の進展と対策について  
浜田市の本年7月現在の高齢化率は37.37%だ。市街地の町別でも50%を超えた所が3町内有る。町なかで50%を超えるとコミュニティが崩壊の危機にあると言われています。現状認識と支援の方向性について伺います。
- ② 防災・減災対策について  
8月9日の台風9号と、その後の大雨で、全国的に大きな被害が発生しました。浜田市においては、幸いに人的被害は有りませんでした。倒木や土砂崩落など農林水産関係に多くの被害が出ました。また周布橋の橋脚が下がり橋が通行止めになっています。未曾有と言っても過言ではない災害となりましたが、災害対応で今後の課題や計画等の見直しについて伺います。
- ③ 浜田漁港への入港・水揚げ増加の促進について  
県内、県外のまき網船の水揚げに対する補助で港が活気づいている。仲買・卸業者や加工関係からも好評と聞いている。市内のまき網、沖底船主との意見交換で造船所と鉄工所の充実要望があったが、その後の状況について伺います。



発言No. 19

受付No. 10

令和 3年 8月 24日  
8 時 57分 受付

## 一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 11 番

氏名 飛 野 弘 二

答弁を求める者  
(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長  
 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

### 発言項目及び要旨

#### 1 元気な中山間地域振興の仕組みづくり「パート14」について

少子高齢、過疎化の歯止めがかからない中、本来ならコミュニティが得意な地域だけに、今回のコロナ禍で3密を避けるため、祭りをはじめ集落行事・イベントなどの自粛で一番大事な意思の疎通手段を分断されている。いまこそ、元気な中山間地域振興の仕組みづくりに挑戦する待ったなしの状況と受け止めている。仕組みをつくることにより、引き続きこの素晴らしい中山間地域に今後も安心して住み続けることができるようにしなければならない。仕組みづくりの主役は、その地域に暮らし、今日まで豊かな自然を守り、伝統文化を継承し、そして、次の世代にこれを引き継いでいこうとする住民の皆さん一人一人である。そして行政はこの活動に参画し、仕組みづくりを積極的に進めていく必要がある。

#### (1) 集落営農の推進について

- ① 浜田市の農地については多くが中山間地域に存在しており、その中山間地域で今後も持続的に住み続けていくためには農地維持が一番課題だと思われる。我が井野地区においても、広域連携協議会が昨年度3月に設立され、今後、地域主体として取組を進めていく事と聞いている。この様に、個人ではなく、集落の枠を超えた地域全体を巻き込んだ、現在の取組状況を伺う。
- ② 各地域における集落営農の推進状況と今後の取組について各支所に伺う。
- ③ その集落単位や更なる広域での営農体制の取組を行うにあたり、農作業の省力化が必要と考える。その省力化における、普及活動状況を伺う。
- ④ 中山間地域を守るためには農地維持が大きな課題である。この大きな課題に対し浜田市農林業支援センターが取り組んでいるが、果たして今の体制で良いのか。体制を充実すべきと考えるが市長の所見を伺う。

(2) 氾濫防止は河川整備から流域治水への方針転換について

先の豪雨において江の川の下流で氾濫が6地区で起きた。農地、住宅、道路など浸水被害が出た。また、堤防整備が追いつかなく4年で3度目の被害と嘆かれる報道もあった。一方、周布川の下流でも氾濫危険ラインを超え大規模な避難所を開設した。また、周布橋が変状し通行止めとなった。近年の気候変動でゲリラ豪雨・線状降水帯など新しい用語も出て来た様に雨の降り方が変化してきた。加えて町部の農地転用や中山間地域の耕作放棄地の増加なども水害を大規模化させている。国の治水対策は大きな堤防を築くなど河川整備に頼って来た。しかし、近年の大規模水害の増加を背景に2020年7月に国土交通省が法制化した防災、減災対策の中では、従来の河川整備中心の治水対策から流域の総力で水害に挑む「流域治水」への方針転換が示された。具体的には、ダムや堤防をかさ上げするだけでなく、川上の農用地を活用して、川下の水位ピークに時間差を設けることで治水対策としては非常に合理的な機能とされている。

- ① 周布川上流の吉地地区や美川地区では、洪水時には開口部から水が逆流して堤内池に灌水し下流に流れる洪水の流量を減少させ洪水が終わると堤内に灌水した水を排水する「霞堤」という治水施設があつて活用されていたと聞くが現在は機能していないのか伺う。(所管は県土整備の施設だが管理上、市としてわかる範囲で答弁下さい。)
- ② 美川地区の浜田市農村広場野球場には、雨水貯蔵排水施設(調整池)があるが先の豪雨時活用できたのか伺う。
- ③ 国の流域治水対策の方針転換で中山間地域や流域に面的に広がる水田を活用した水害抑制の取り組み「田んぼダム」が注目されている。田んぼにはアゼがあり雨水を一時的に保持する機能を持つが、田んぼ面積が減れば雨水は一度に水路や河川に集まり水量が施設の能力を超え氾濫が起こる。そこで、田んぼの落水柵を改良することで下流の水位ピークをずらす。栃木県小山市では、2015年から4年間で800haの田んぼダムが誕生し、取組の成果を出している。改良費も安価で次の年からでも活用できる治水対策だ。これも「農用地の維持」ができてこそ成せる先代の知恵と教訓だ。中山間地域を抱える浜田市も川上の「田んぼダム」に積極的に取り組む必要があると思うが伺う。
- ④ 終わりに当たり、どうしても市長に再びお聞きする。それは、故宇津前市長の告別式上、平成17年の合併に触れ「川上である、那賀郡を大切にすることが、川下の水産浜田市のためになり、新市全体の発展につながる」この想いは、今後も継承するとあつた。以降、時も流れ自治区制度も廃止され、新しく協働のまちづくり推進条例が施行された今日でも、その想いは変わっていないのか、あえて伺う。

令和3年8月24日

10時56分 受付

## 一般質問発言通告書

議席番号18番

氏名 道下文男

答弁を求める者

(○をつける)

市長

教育長

監査委員

選挙管理委員会委員長

農業委員会会長

固定資産評価審査委員会委員長

公平委員会委員長

### 発言項目及び要旨

1 生まれてよかった・住んでよかった・これからも住みたい、“魅力のある浜田市づくり”について

(1) 市民が、安全・安心と思う浜田市づくりについて

- ① 昨今の異常気象により、浜田市の主要河川流域で「避難指示」が多発されている。気候変動に対応した新たな災害対策強化が望まれるが、考えを問う。
- ② 市民の安全・安心に、「避難行動要支援者名簿」の有効活用が望まれるが、活用についての所見を問う。
- ③ 所有者不明の土地が急増しており、住居環境に多大な悪影響をもたらしている。対策強化への考えを問う。

(2) 若者が、定住したいと思う浜田市づくりについて

- ① 若者の雇用の場確保が大前提ではあるが、賃金の確保も重要課題である。市の現状を問う。
- ② 対策への考えを問う。

(3) 子どもたちが、生まれてよかったと思う浜田市づくりについて

- ① 昨今の社会情勢の中、子どもたちの精神面の不安拡大を危惧する。市の現状を問う。
- ② “はまだ市民一日議会”において「移転が計画されている松原町の子育て支援センターの跡地に、ボールが使える遊び場をつくってほしい。」との意見があった。浜田市での子どもたちの遊び場となる公園整備の現状を問う。
- ③ 元気な浜田っ子の育成が喫緊の課題である。10年、20年先を見越した子どもの遊び場整備を、早急に進めるべきことへの所見を問う。

